

引用文献
1) 松倉節子 他：アレルギー・免疫17(6)：1031-1038, 2010

検査項目 : イムノキャップ 特異的 IgE 検査
検体量 : 血清 各0.3 mL
容器番号 : 1
保存方法 : 冷蔵
検査実施料 : 各 110 点
検査判断料 : 144 点 (免疫学的検査)
所要日数 : 2 ~ 3 日
基準値 : 0.34 UA/mL以下

2 扁平上皮癌関連抗原 (SCC抗原) について

SCC 抗原は扁平上皮癌関連蛋白で、子宮頸癌、膣癌、外陰癌、皮膚癌、肺癌、食道癌、頭頸部癌などの各種扁平上皮癌患者の血中に増加し、扁平上皮癌の腫瘍マーカーとして臨床的に広く用いられています。

SCC 抗原も他の腫瘍マーカーと同様に腫瘍の進行と共に上昇します。しかし、血中半減期は短く腫瘍摘出後 2 日以内には正常化し、化学療法や放射線療法の有効例では SCC 抗原値は低下し治療効果を鋭敏に反映します。したがって、治療後も SCC 抗原値が持続的に高値を示したり、上昇を認めた場合は、医療の追加や別の治療法への変更などを考慮する情報となります。

SCC 抗原測定的最も有用な使用方法は、進行癌症例などのハイリスク群の選別、治療効果の判定、再発や再燃のモニタリングだと考えられています。

SCC 抗原値は月経周期、性差、年齢、喫煙、妊娠による生理的変動の影響はなく、正常の扁平上皮にも存在していることから採血や測定に際して注意が必要です。採血時に何回も皮膚を刺すと組織液が混入し偽陽性をきたす可能性があります。

検査項目 : 扁平上皮癌関連抗原 (SCC抗原)
検体量 : 0.4 mL
容器番号 : 1
保存方法 : 冷蔵
検査実施料 : 112 点
検査判断料 : 144 点 (生化学的検査)
所要日数 : 1 ~ 2 日
基準値 : 2.0 ng/mL

3 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について (一部改正)

近年、移動手段の発達に伴い人や物資の移動が迅速、活発になっていることや地球温暖化などの様々な環境要因から今まで国内にはなかった感染症が流行する可能性が否定できなくなってきました。

最近では記憶に新しい蚊が媒介する『デング熱』がありましたが今回、厚生省より平成28年2月5日から同じく蚊が媒介するジカ熱が『四類感染症』に新しく指定されましたので報告いたします。

つきましては厚生労働省のHPにて詳細のご確認をお願いいたします。
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000109881.html>

前回メールニュースを配信しました後から現在までに発行された「KMLインフォメーション」についてお知らせ致します。

各インフォメーションにつきましては、医院様へ随時お届けしておりますが、ご確認などに活用して頂ければ幸いです。

2016年 2月1日 新規受託項目のお知らせ
<http://www.kml-net.co.jp/pdf/2016-0201.pdf>

2016年 2月12日 検査受託中止のお知らせ
<http://www.kml-net.co.jp/pdf/2016-0212.pdf>

2016年 2月23日 SCC 抗原検査内容変更のお知らせ
http://www.kml-net.co.jp/pdf/2016-0223_02.pdf

2016年 2月23日 遊離テストステロン受託再開のお知らせ
http://www.kml-net.co.jp/pdf/2016-0223_01.pdf

2016年 3月8日 診療報酬改定に関するお知らせ（速報版）
<http://www.kml-net.co.jp/pdf/2016-0308.pdf>

2016年 3月15日 検査内容変更のお知らせ
<http://www.kml-net.co.jp/pdf/2016-0315.pdf>

■ □ = = = = =



最後までお読み頂きまして有り難う御座いました。

編集／発行 <http://www.kml-net.co.jp/>
株式会社 京浜予防医学研究所
〒216-0001 神奈川県川崎市宮前区野川 1432-1

= = = = = □ ■